

大学・高専における工学系人材育成

村本 健一郎（金沢大学 監事）

講演要旨

様々な分野で人材不足が問題になっている。高度成長期に建設された社会インフラ（道路、鉄道、トンネル、橋梁等）の維持管理、女性が働くために欠かせない保育関係、高齢者が増えることによる介護関係は、人材を増やす必要のある分野といえる。また、我が国の食料自給率が 40% という極めて低い状況での農業就業人口の平均年齢が 66.6 歳（2018 年）という課題もある。更に、東日本大震災からの復旧・復興のための人材不足も深刻になっている。一方、最近の景気回復により人材の偏りも問題である。現在の人材不足と共に将来に向けた適正な人材配置のための長期戦略が求められる。

持続可能な社会の発展のために、新産業の創出に向けて、国や都道府県、産業界や大学等のレベルで様々な施策が実施されている。資源が乏しく少子高齢化が急速に進む中で、今後も新しい産業が持続的に創出されるには、次世代の産業を担う人材育成が不可欠である。特に、産業構造と就業構造の急激な変化に対応できる IT 人材等の専門人材の不足は一層深刻化しており、我が国が目指す Society 5.0 の実現に向け、人工知能(AI)など情報技術を高度に活用して社会の具体的な課題を解決できる人材の育成が急務である。

本講演では、我が国の置かれている現状を踏まえ、また、人口動態や社会構造が急激に変化し、数年先の見通しさえ困難な状況のなかで、大学・高専における工学系人材の育成について考える。

講演者紹介

富山大学大学院工学研究科修士課程修了。工学博士(京都大学)・医学博士(富山医科薬科大学)。1973 年～1990 年：富山工業高等専門学校(助手、助教授)、1991 年～2010 年：金沢大学(助教授、教授、学長補佐等)、2011 年～2015 年：石川工業高等専門学校(校長)、2016 年～：金沢大学(監事)。主な研究テーマ：画像情報処理、自然環境計測、神経情報処理等。